

全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュール I 科目
テーマ名	18-A1 現代経済と企業活動		
推奨する全学モジュール II 科目テーマ名	現代経済と企業活動 a	現代経済と企業活動 b	
対象学部	多文化社会学部・教育学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	島田 章	責任部局	経済学部
趣 旨	現代社会の安定と繁栄は、限られた資源を有効に活用し生活水準を維持発展させる仕組みとしての経済活動のもとに成立しています。こうした経済の仕組みを、その原理や制度、歴史の変遷、国や地域間の比較、統計分析など幅広い観点から考察することにより、複眼的で幅広い視点を獲得することを目的としています。本モジュールの履修により、経済学の体系に沿って統一的に学ぶことが可能になります。		
学生の皆さんへのメッセージ	前提知識はとくに問いませんが、経済や企業について広い関心のある者、先人や他者から謙虚に学び、学習を進めていくことに関心のある者の受講を希望します。また、新聞や日々のニュースに耳を傾けることが、社会現象の観察眼・批判的思考力を向上させる機会となることを念頭に受講してください。		

科 目 名	担当者名	概 要	キーワード
経済活動と社会	式見 拓仙	経済、社会現象を読み解く上で様々な統計データや統計量を理解しておくことが必要となる。初歩的な統計量から始まり、確率分布、回帰分析、経済データに関するいくつかの統計指標を学ぶ。	統計分析
企業の仕組みと行動	張 笑男	この講義では、会社法を中心に企業の仕組みおよび活動を規律付ける法制度について学ぶ。	会社法
経済政策と公共部門	島田 章	市場経済においても、政府は重要な役割をもっている。市場経済の機能と限界を明らかにし、市場経済において政府がどのような役割を果せるかをマクロ経済学的な視点から学ぶ。	市場の価格メカニズム、政府の役割

全学モジュールの 目標および授業編成 の視点との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	※授業編成の視点				
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的思考力	計画力	倫理観	多様性の理解	協働性	考えるやり取りする力	関心	国際・地域社会への	A	B	C	D
													取り扱う 人文科学の内容を	取り扱う 社会科学の内容を	取り入れる 現代的な話題を	アクティブ・ラーニングの活用
経済活動と社会	○	○		◎	◎									○	○	
企業の仕組みと行動	○	○	○	◎						◎				○	○	○
経済政策と公共部門	○	○	○	◎	◎								○	○	○	○
◎(特に重視)の数	0	0	0	3	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
○(重視)の数	3	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	3	2	

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュール I 科目
テーマ名	18-A2 環境と人類の持続可能な発展		
推奨する全学モジュール II 科目テーマ名	環境マネジメント		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	山下 敬彦	責任部局	産学官連携戦略本部
趣旨	21 世紀市民のコモンセンスとして環境配慮への理解と環境保全に関する基本的な知識を修得し、人類の持続可能な発展 (sustainable development, SD) を実現するための基本的な姿勢を身につけることを目的としている。そのため、環境問題の考え方や環境関連の国際法および国内法の精神を理解するとともに、環境教育・環境コミュニケーションの重要性を理解することを目的としている。		
学生の皆さんへのメッセージ	私達 21 世紀市民が目指すのは、人類の持続可能な発展 (sustainable development, SD) です。そのためには、環境保全に関する基本的な知識が必要です。それらは、21 世紀市民が教養として身につけておくべきコモンセンスです。本モジュールは、そのような観点から環境保全に関する理解と基本的な知識について学習します。		

科目名	担当者名	概要	キーワード
国際環境法	山下 敬彦	環境問題に対する考え方、環境法(国際法)の歴史と特質およびそれらの概要について学習し、環境問題の基本的考え方や国際環境法の理念・精神について理解を深める。	環境問題の基本的考え方、人間環境宣言、国際環境法
国内環境法 I	竹下 哲史	日本における環境問題とそれらに対する対策の考え方や歴史、国際環境法との関係ならびに、日本における環境に関する基本的法律である「環境基本法」等について学習し、進むべき方向やとるべき行動等について理解を深める。	日本の環境問題、環境基本法、環境教育、進むべき方向ととるべき行動
国内環境法 II	久保 隆	「大気汚染防止法」、「水質汚濁防止法」や「環境配慮に関する法律」など国内の環境関連法について学習し、環境保全や環境コミュニケーションの重要性について理解を深める。	環境保全、環境コミュニケーション、日本のエネルギー事情

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	※授業編成の視点			
	知識・技能	主体性	情報リテラシー	論理的組み立て	批判的思考力	計画力	倫理観	多様性の理解	協働性	考えるやり取りする力	国際・地域社会への関心	A	B	C	D
国際環境法	◎	◎	○	○	○		◎	◎		○	◎	○	○	○	○
国内環境法 I	◎	◎	○	○	○		◎	◎		○	○		○	○	○
国内環境法 II	◎	◎	○	○	○		◎	◎		○	○		○	○	○
◎(特に重視)の数	3	3	0	0	0	0	3	3	0	0	1	0	0	0	0
○(重視)の数	0	0	3	3	3	0	0	0	0	3	2	1	3	3	3

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュール I 科目
テーマ名	18-A3 日本を知り、世界を知る		
推奨する全学モジュール II 科目テーマ名	社会と文化の多様性	文化の交流と共生	
対象学部	教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	野上 建紀	責任部局	多文化社会学部
趣旨	<p>グローバル化が広く進展している現在、われわれはこれまで以上に「世界を知る」必要に迫られている。そして、このことは必然的に「日本(と日本人)を知る」ことをわれわれに求める。なぜなら、他者を理解するためにはまず、自らが何者かという問いに深く思いを巡らさなければならないからである。</p> <p>本モジュールでは、日本、アジア、ヨーロッパ、アフリカ、世界といった空間軸の間で視野を柔軟に調整しつつ、文化、社会、歴史、宗教、芸術、言語、交流などの視点から世界と日本を考察することによって、多様な他者と同時に多様な自己をも理解することをめざす。そこからグローバル化にともなっている様々な多文化状況に適応する素養と思考力を身につけることが本モジュールの教育目標である。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>グローバル化が急速に進むなかで、われわれは社会的・文化的・言語的に多様性を持つ様々な組織の一員として生活し、働くこととなります。「日本を知り、世界を知る」ことは「他者を理解し、自己を省みると同時に相対化する」ことに繋がる知的な営みであり、またそうした多文化状況で生きていく上で必要不可欠な能力でもあります。本モジュールを受講することで是非そのような力を身につけて下さい。</p>		

科目名	担当者名	概要	キーワード
日本のことばと世界のことば	原田 走一郎	日本語は敬語があつて美しい、などと言われるが本当だろうか。そんなことを言う人は言語に対する知識が決定的に欠如している、ということが本講義を受ければわかる。日本で使用されている言語を世界の言語という文脈で観察することで、自分自身の言語を相対的に見る訓練をする。	言語学 言語類型論 方言
近現代のアジアと日本	中村 則弘	近代世界システムとの関連から、近現代の東アジアと日本の関係をひもとく。日本社会、中国社会、コリア社会の歴史的特性への理解を深めつつ、近代社会のあり方自体を問い直す批判力・構想力を鍛えてゆく。	東アジア 世界システム 社会変動 オルタナティブ
人々の暮らしから見る現代日本	野上 建紀 中野 雄二 山口 美由紀	私たちは「モノ」に囲まれて生活している。そして、「モノ」には個人や家族、社会が反映されている。そのため、「モノ」を観察すれば、その社会背景を知ることができる。授業では、生活に使われた「モノ」の一つである陶磁器の変遷を通して、陶磁器に投影された人々の暮らし(生活、産業)の変化を見ていく。そして、過去がどのように現在につながっているか考える。	遺物 近世考古学 陶磁器 伝統産業

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	① 知識・技能	② 主体性	③ 情報リテラシー	④ 論理的組み立て	⑤ 批判的思考力	⑥ 計画力	⑦ 倫理観	⑧ 多様性の理解	⑨ 協働性	⑩ 考えをやり取りする力	⑪ 国際・地域社会への関心	※授業編成の視点			
												A	B	C	D
												取り扱う 人文科学の内容を	取り扱う 社会科学の内容を	現代的な話題を 取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用
日本のことばと世界のことば					○			◎			○	◎	○		
近現代のアジアと日本					○			◎			○		◎	○	
人々の暮らしから見る現代日本	○							◎			○	◎	○	○	
◎(特に重視)の数	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	2	1	0	0
○(重視)の数	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	3	0	0	3	1

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目